

## 平成 30 年度大野城市芸術文化に関する市民アンケート調査報告書（概要）

### ◆市民アンケート

#### 1. 調査結果の分析

##### （1）市民の芸術文化活動の実態

- 芸術文化を鑑賞した人が全体で 72.2%、活動をした人が全体で 34.9%となっており、芸術文化を活動する人は少ないことがわかる。
- 芸術文化を鑑賞、活動しない理由としては、主に勤労世代で「仕事が忙しくて時間がとれない」という意見が目立つ。
- 芸術文化活動を鑑賞するために最も利用されている施設は「市外のその他の施設、場所」だが、活動するために最も利用されている施設は 60 代以上では「大野城まどかぴあ」であり、市内の文化施設は年代が上がるにつれて、利用率が高くなっていることがわかる。

##### （2）芸術文化に対する市民意識

- 芸術文化の必要性について、「必要である」「ある程度必要である」と答えた人が 7 割を超えており、大野城市民にとって芸術文化は必要とされていることはわかるが、先述の活動をしている人の割合は少なく、必要性を感じているが行動できていない人が多くいることがわかる。
- 必要性を感じている人の理由としては、「生活や心、人生を豊かにするため」といった意見が最も多く、他には「気分転換、リフレッシュとなるため」や「人と人のつながり、コミュニケーションの形成につながる」などの意見も多く見られる。
- 必要性を感じていない人の理由としては、「興味がないため」という意見が最も多く、その他には、「時間的、金銭的な余裕がないため」という意見が多く見られる。

##### （3）情報の入手手段と事業の認知度

- 芸術文化に関する情報入手手段は、「市・まどかぴあの広報」の割合が最も高く、広報誌が重要視されていることがわかる。

##### （4）大野城市の芸術文化活動の将来について

- 本市の芸術文化施策への満足度は「満足している」「ある程度満足している」と答えた人が 5 割近くいるのに対し、「その他」が 3 割程度である。「その他」の理由としては、「施策がわからないため評価できない」といった意見が多く目立つ。
- 「あまり満足していない」「満足していない」と答えた人の理由は「興味がない」という意見が多く、関心をもってもらうことが課題である。
- 芸術文化活動の充実がどの程度必要とされているかについて、「学校教育の場での芸術文化活動」が最も重要視されており、次いで「高齢者の芸術文化活動」「学校教育の場以外での青少年の芸術文化活動」が必要とされており、子どもや高齢者に対して芸術文化が必要だと感じている人が多いことがわかる。
- 芸術文化に関する具体的な施策については、「医療・福祉の場における芸術文化活

動の充実」が最も重要視されており、次いで「情報発信・情報提供体制の充実」や「芸術文化活動を行いやすい場の提供」が必要な施策として考えている人が多い。

- 芸術文化通じたコミュニティによるまちづくりへの参加意欲については、何らかの形で参加したいと考えている人が6割を占めており、参加意欲があることが伺える。
- 「芸術文化を通じたコミュニティによるまちづくり」への提案については、参加型（体験型）イベントの実施や情報発信体制の充実、人材育成に関する意見が多かった。